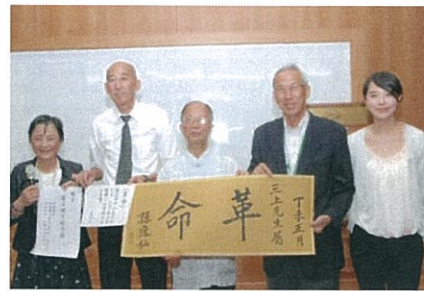


台湾国父紀念館交流の旅に参加して

副企画運営委員長 三上 隆



三上豊夷氏宛孫文書「革命」贈呈

その後、「革命」の揮毫のコピーが館長に贈呈された。孫文像の前に献花をする予定の時間が決められてい

初めての国立国父紀念館。館長以下、多くのスタッフの出迎えがあり、セミナールームでの館長・友の会の林会長・NPO国際音楽協会の張先生の各挨拶が行われ、

たので、次々と行事が進められました。林会長・後藤企画運営委員長と私の3人が孫文像の前に立ち献花を行いました。曾祖父と交流のあった孫文先生の大きな像を見ると改めてその偉大さを感じました。残念ながら国父紀念館2階は改修中のため、資料は少なかつたと思いますが、現在展示されている中に日本とかかわりの深いものが多かつたのは意外でした。

舞子の孫文紀念館の学術だけでなく、移情閣友の会が市民レベルで交流ができることで、各々の同好会やサークルも交流できる初めの一步を踏み出したような気がします。後藤企画運営委員長、陸超中華民國留日神戸華僑總會会長の粘り強い交渉により今回の交流ができたと思っております。

副企画運営委員長 中西 敦彦



「鼎泰豊」で美味しい台湾料理

移情閣友の会会員として、国父紀念館との交流事業に初めて参加しました。記念品の交換式や国父孫文への献花式の挙行、紀念館館長自らのお見送りまで台湾側の丁寧な対応に驚きました。また、台湾の旅交流音楽会での聴衆との一体感を持った盛り上がり感動したものです。

北の九份から南の阿里山までの観光では、当初のスケジュールからの遅れを気にしないおおらかな台湾の気性と淡泊な台湾料理、これらは、私には好ましいものでした。とりわけ、阿里山の祝山では霧が深く、御来光を諦めかけて帰かけた時、突然現れた御来光は我々の幸運を感じさせるものでした。

最後に、この企画を立案された後藤委員長以下の関係者に感謝しま

企画運営委員・中国語講座副運営委員長 宇野浩二

中国語については、聞き取れないことが多く学習が足りないと痛感しながらも、何気なく使った中国語が問題なく通じたときには嬉しく、学習意欲が湧きました。

旅の3日目は、埔里の昼食の後、阿里山(台北から約350km南)に向かいました。一行のバスは高速道路、葛折れの山道を3時間ほど走り、途中の奮起湖駅にて休憩、登山鉄道の機関車庫を見学した後、さらに1時間バスに揺られて阿里山閣ホテルに到着。静かな山林に囲まれ、ホテルも周辺にも店は無し。フロントに聞くと(中国語で!)山頂は気温10度とのことで防寒着をレンタルし、翌朝に備え早めに就寝。

4日目、3時起床4時出発で、暗闇の平沼駅にて一同登山トロッコ列車に乗り込み、満員の列車に揺られ約25分で山頂の祝山駅へ到着。暗い山頂が薄明るくなるにつれ、霧に覆われた周囲が見えてきて、一同不安に。霧が流れるのを祈りつつ、日の出までの時間を売店の小吃で腹ごしらえ。霧で諦め帰る観光客が出る中、日の出時間5時50分、薄くなった霧から透けるようにご来光が射し込み、周囲は歓喜の声! 銘々記念写真を撮り、お祈りする方もあり、皆さま満足の表情でした。お疲れ様でした。また行きましょう。謝謝。



九份 黄金博物館

今回の「国父紀念館の交流行事 台湾の旅」の企画が出た際、友の会ならではの貴重な体験ができるのでは、中国語講座で学んだ事を活用できるのでは、との2つの動機で応募しました。台湾は今回が初めてです。主たる国父紀念館訪問では驚きの連続でした。

紀念館の孫文銅像が大きく偉大で、また、儀礼兵に守られ、国でいかに重要な存在であるかを目の当たりしたこと。紀念館の方々に熱烈歓迎されたこと。そして音楽協会の方の演奏、演唱が素晴らしく、現地の来館者も盛り上がったこと。音楽に国境はないのだと感じました。

行程は九份、国父紀念館、故宮博物院、日月潭(遊覧船探訪)、阿里山山頂(早朝ご来光)など盛りだくさんで、各所で見どころが多く、再訪して詳しく理解したいと思いました。この旅の中で、友の会会員と国際音楽協会の方が、同じ乗り物に乗り、円卓で食事をし、話をすることで相互理解が深まり、これも交流の旅の成果ではなかつたかと思ひます。

孫文生誕150周年記念台湾の旅交流音楽会を終えて

NPO法人国際音楽協会理事長 張文乃先生・コーラスの皆様



交流音楽会ポスター



記念品贈呈「芸海求真」刻印



ロビーコンサートの様子

移情閣友の会会長林同福先生をはじめ、有識者の皆様と私どもNPO法人国際音楽協会7才から82才の会員と演奏家たち、総勢33名が8月19日から22日まで台湾へ交流演奏の旅に出かけました。演奏会は2日目。立派な国立国父紀念館でのロビーコンサート。オープニングはシンガーソングライターの涼恵さん、バックに鳳歌アンサンブル7名が加わりました。

続けた二胡の鳴尾牧子先生、揚琴の付虹先生、フルスの浜寄繁一先生、どの曲も素晴らしい演奏でございました。ここで儀隊の交代儀式があり、私どもはしばしの休憩。その後ソプラノの藤浦佐知子先生、そしてバリトンの浜寄繁一先生が加わって二重唱。最後に武庫川女子大学の教授坂本環先生が「荒城の月」など、台湾でもポ



二胡演奏・鳴尾先生

今回は国父紀念館の孫文の巨大な像の真横に設えられたステージでの演奏というめったにできない経験をさせて頂きました。国父紀念

館の方々の細部まで行き届いたご配慮もありがたく、たくさんのお客様が興味を持って聞いてくださいました。各奏者による古今の日本の曲を中心としたプログラムには

「素朴なキラキラを浴びながら～台湾演奏旅行を振り返って～」

『素朴』今回の台湾での演奏旅行を振り返る時、真っ先に浮かび上がる言葉。音楽会の会場となった国立国父紀念館には8.9メートルもある孫文のブロンズ像があるのだが、大きさの迫力はあっても不思議と威圧感はなく、広い温もりに満ちた空気の流れを感じた。きっと人柄国柄に拠るものなのだろう。

大変有り難いことに、紀念館側や地元メディアに想像以上の歓迎を受け大成功でコンサートの幕が下りた。個人的には「阿里山之歌」を国も出演者と聴衆の枠も超えて、自然に手拍子を打ちながら笑顔で一緒に歌ったことが深く印象に残っている。音楽を通じてだけでなく、歴史において日本と台湾は幾度となく絆を育んできた事実がある。八田與一と鳥頭山ダム。ご先祖様である新渡戸稲造と糖業博物館。どうしてもこの目と足で尋ねたかった。現地に生きている人との触れ合いが、自分の人生と呼応する。目を合わせた時の表情…握手した時の肌のぬくもり真の交流とは、やはり人と人なのだろう。身勝手

ピューラーな日本歌曲を披露。いよいよフィナーレ、出演者全員による”阿里山の歌”は観客の皆さんと大合唱となり、私どもの想像をはるかに超えて心の糸が強く結ばれた瞬間だったように思いました。交流演奏会はまさに人と人、心と心を瞬時に結ぶ力があると改めて確信致しました。旅行社の陸さん、この旅にご参加の全ての方々へ感謝申し上げます。

*コーラス同好会参加者の声

この度の台湾旅行は、天候にも恵まれとても有意義な4日間でした。私達の意向を聞いて臨機応変に対応して頂きました事感謝いたします。国父紀念館での演奏会も成功し、阿里山の御来光も思いがけない形で見る事が出来ました。大満足の旅でした。(福島志津子、進藤麗子、元山昭子、竹田敦子)

二胡同好会 鳴尾 牧子・中北 富代

温かい拍手を頂き、出演者全員による台湾民謡「阿里山の歌」では客席からも自然に歌声が上がって、とても素敵な交流コンサートとなりました。

*二胡同好会参加者の声 (中北富代)

私のはじめて台湾を訪ねたのは、国父紀念館が完成した1972年でした。約2ヶ月台中に滞在し、その間、日月潭にも行きました。

今回の旅は、若かりし頃の足跡をたどり、縁を確かめ喜ぶような有り難い旅になりました。素晴らしいコンサート、素晴らしいお出会いに心から感謝いたします。皆様のご健康とお幸せを祈ります。謝謝!

新渡戸 涼恵



な単独行動をお許しいただいたこと、殊に台南出身の後藤みなみ女史には大変お世話になり心から感謝申し上げます。再び合流した翌日、阿里山のご来光に

手を合わせる事が出来ました。神秘的な光に包まれながらあの時の歌声と手拍子が蘇る…。どんなに時代が過ぎようとも変わらない心の交流。孫文が日本に導かれたように、私達一行も台湾に導かれた。身の引き締まる思いである。帰り際に三上 隆様からお誘いを受け、移情閣友の会に有り難く入会させていただいた。この旅をきっかけに、これからもご縁を育んでゆけますように! 改めまして、宜しく願い申し上げます。